

ながらさんおんじょうじ
長等山園城寺
(三井寺)
境 内

光浄院に並び、中世の書院造の伝統を引く客殿。桃山時代を代表する狩野光信の代表作の障壁画が残される。

西国三十三箇所第十四札所。如意輪観音像がご本尊。琵琶湖を見下ろす景色も楽しみたい。御朱印帳をお持ちの方はご持参ください。

西国第14番札所
観音堂

講義とお食事はこちらで

総本山三井寺事務所

文化財収蔵庫

鐘楼（三井の晩鐘）

希少な桃山期の
仏堂建築のひとつ

国
光浄院

国宝
光浄院客殿

室町時代の客殿や
書院造の様式を残
す貴重な遺構

近江八景のひとつ「三井の晩鐘」で知られる鐘楼



お車でお越しの方はこちらに

みどころ・学びポイント

光浄院は、慶長 6 年（1601）に豊臣秀吉に仕えた武將で、三井寺の僧でもあった山岡道阿弥によって建立されました。室町時代に誕生する「書院造」の代表的遺構で、洛中洛外図屏風に描かれている「細川管領邸」に近似した構えを見ることができます。洛中には残らない中世の住宅建築を彷彿とする貴重な文化遺産です。勸学院は、慶長 5 年（1600）に豊臣秀頼が施主となり、豊臣政権五大老の一人・毛利輝元によって建立されました。光浄院同様の「書院造」の客殿で、狩野永徳の息子 狩野光信によって描かれた障壁画は、桃山時代後期を代表する作品として重要文化財に指定されます。当日は、保存のため文化財収蔵庫に保管されるオリジナルも拝見させていただきます。



栗本 徳子(くりもと・のりこ)

1956年 京都市伏見区生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。京都芸術大学名誉教授。専門は日本美術史、宗教文化史、染織史。京都芸術大学の通信教育部のスクーリングや芸術学舎で園城寺の学外研修を実施し、福家長吏様のご協力を得て、毎回大変好評を得てきたが、今回は違った角度から、特に智証大師円珍と園城寺の歴史、書院造の歴史、狩野派についての講義を担当。園城寺の激動の歴史と多様な文化を紹介したいと考える。